

シリーズ

お互いの力でまちづくり ⑭

日本ふるさと塾主宰・萩原茂裕

「ふるさと香住塾」の講演を聞いた小学生たちから私たちがもとに、胸がジンとなるような作文が届きました。その一部をご紹介します。「ぼくは、大きくなったら、香住が観光客でにぎわうようにしたいです。」

それには、足もとにある、香住の特色を生かしてどんどん発展させていきたいです」
（兵庫県・香住町立長井小学校六年・Mくん）。

「香住町の有名な物を強調することが大事だと思いました。梨の博物館をつくったり梨の街路樹をつくったりすればいい。またカニにしても、カニの研究所をつくって、カニをアピールしたらいいと思います。」（同校六年・Mくん）。

「私は自分の住む町は小さくて、何もじまんするところがないと思っていました。でも足元から見ると、じまになるようなことが、たくさんあります。」

さんありました。でも、つい東京とくらべたり、大きな物が目について、足元に気がつかなかったのだと思います。

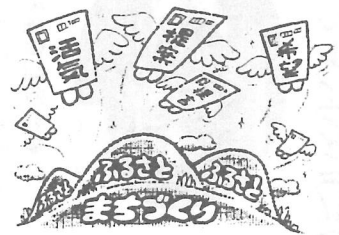
東京をものさしにして、この町を見るのじゃなくて、香住町をものさしにして、たくさんいいところを知り、すばらしい町にしていきたいです。」

（同校六年・Sさん）。

7日連続の「まちづくり教室」①

講演をきっかけに町民の意識が変化

こうして、町民のすべてが同じ土俵に上がって、まちづ



くりをやらうと第一歩を踏み出した香住町——人々の意識は少しずつ変わり始めたようです。「希望がわいた。香住町の前途が明るくなった」
「若者たちの間にまちづくりについて、何かをやりたいという気運が芽ばえ始めている。チャンスだ！」
という声が上がりましたので

です。

具体的には、カニについてもっと町民が愛着をもち、PRする必要がある。そこで、香住駅にカニの生簀を設置し、また防波堤にカニの絵をペインティングしようということが決まりました。

また、香住町は、江戸中期の代表的な画家、円山応挙のゆかりの地でもあります。そこで、応挙まつりや「応挙通

り」をつくっては、という話も検討されているということです。

同じ物差しをもつことが大事

「まちづくりは人づくりから」と町民がこぞって立ち上がり始めた香住町は、いま、活気にあふれています。人々の意識が変わったからでしょう。「どうなる、どうする香住町!?」と、それぞれが、まちづくりへの問題意識と、同じ物差しをもったことは、本当に素晴らしいことです。

「ふるさと香住塾」も、住民ベースでスタートしました。これから、このまちの努力が一つ一つ実り、どんな香りの花を咲かせるのだろうか。大いに期待したいと思うのです。



まちづくりは 人づくりから